

愛媛県大洲市における災害支援活動

(公社) 高知県栄養士会
会長 森田 陽子

平成30年7月に発生した西日本豪雨災害の支援にあたり、当会からJDA-DAT高知メンバー9名を愛媛県大洲市に派遣し、支援活動を行いましたので報告します。

1 派遣に至る経過及び活動期間・人数

平成30年7月14日(土)夕方、日本栄養士会から愛媛県大洲市の支援をオール四国で対応してもらえないかと協力依頼の電話があり、すぐにJDA-DAT高知メンバーに一斉メールを送信して出動協力を呼び掛けました。手を上げてくれたメンバーの日程調整を行い、第1陣として7月17日(火)に1チーム3名が出発。以降、7月26日(木)まで、リーダー7名及びスタッフ2名が延べ8日間活動を行いました。(表1)

2 活動場所

大洲市総合福祉センターを拠点に、公民館や小学校など指定避難所7カ所、集会所や寺など住民管理の避難所5カ所、大洲市体育館、肱川地区の家庭等、延べ14カ所で活動。(表2)

3 活動内容

<7月17日> 拠点整備、アレルギー対応、避難所巡回

午後、第1陣が大洲市総合福祉センターに到着。JDA-DAT号から災害支援物資等を2階研修室「日本栄養士会特殊栄養食品ステーション(以下「ステーション」という)」に運び上げる設置作業から開始。活動用書類様式や連絡用携帯電話、配布資料の確認、ステーションの開設時間など支援活動に関する初期設定を愛媛県栄養士会及び日本栄養士会下浦常務理事と協議し決定。現地保健師からの依頼を受け、食物アレルギーのある7ヶ月児の母親に電話で栄養相談やステーションでの来所対応を開始。夕方からは災害支援ナースと一緒に避難所を巡回訪問し、食事状況の把握及び栄養相談を実施。

<7月18日> 全体ミーティング、ステーション対応、避難所巡回

9時半から全体ミーティングに参加し、各支援活動の動きを共有。その後、現地保健師に同行して避難所を巡回訪問、高齢者の便秘対応として食物繊維含有食品の提供や食中毒予防・衛生面の注意喚起。ステーションでは子育て中の



食物繊維含有食品を実演説明



食物アレルギーの相談対応

表1 愛媛県大洲市支援 派遣一覧(高知県)7月

	JDA-DAT 高知メンバー	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
		火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
1	森田陽子	リーダー									
2	津野美保	リーダー									
3	高橋由美	スタッフ									
4	山下鈴子	リーダー									
5	島田南子	リーダー									
6	岡内敦子	リーダー									
7	篠田知佐	リーダー									
8	別役由香	スタッフ									
9	廣内智子	リーダー									

表2 活動場所(大洲市)7月

	活動場所 (避難所等)	17日	18日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
		火	水	土	日	月	火	水	木
1	総合福祉センター	○	○	○	○	○	○	○	○
2	平公民館	○		○		○			
3	八多喜公民館		○		○			○	
4	大川公民館				○			○	
5	肱南公民館			○		○		○	
6	菅田小学校					○		○	○
7	新谷公民館				○				
8	中場集会所		○		○				○
9	定林寺				○			○	
10	道成集会所			○					
11	望湖荘								○
12	東集会所				○			○	
13	大洲市体育館								○
14	肱川地区(家庭)								○

母親の相談に応じ、アレルギー対応の離乳食を提供。

<7月21日~24日> 夜の避難所巡回、ミーティング、カンファレンス

全体ミーティングで全避難所の状況についてアセスメント・共有し、その後スタッフ間で避難所巡回のミーティング。被災者が仕事や自宅片付けを終えて避難所に戻ってくる夕方から夜の時間帯(17時~18時50分、19時半~20時半)に、災害支援ナースとペアで避難所訪問を行い、聞き取りの負担が最小限になるよう配慮しつつ被災者のアセスメント、ニーズ・課題の把握等を実施。避難所の食事は3食提供されており、朝食はパン・野菜ジュース、昼食・夕食は弁当(コンビニ又は弁当屋)。被災者から「歯がなくて弁当が食べられない。ゼリー状のものが欲しい。野菜や果物が食べたい。お酒が飲めないので逆に体調がよい。」等の声あり。



全体ミーティング



各チームの活動場所と
内容を記載



家庭訪問

<7月25~26日> 支援物資調査、家庭訪問、避難所巡回、ミーティング、申し送り

2チームに分かれ、1チームは愛媛県庁管理栄養士と一緒に支援物資集積所(大州市総合体育館)で支援物資管理状況の確認作業。支援物資はわかりやすく仕分けされ、団体や個人が必要な物資を取りに来ていた。すぐに在庫切れしたのはカセットコンロで、缶詰はあまり人気がなく、水は大量にあるがお茶はないかと問合せあり。もう1チームは、岩手県保健師チームから「肱川地区に口角炎発症の少女がいたので、栄養士の介入が必要と思われる」との報告を受け、小学3年生の少女宅を訪問。不在の為、少女が昼食を避難所に食べに来るまでの間、肱川保健センター保健師と同行で、避難所で食事をしていない家庭を個別訪問(16軒)、必要に応じて栄養補助食品やサプリメントを提供。その後、避難所で口角炎の少女に会い、3日前から発症し口を開くと痛いので食欲が低下していたため野菜ジュースを提供、ストローや小さなスプーンを使うと痛みが少なく食べやすくなることをアドバイス。その他、臨月の妊婦や、糖尿病と高血圧既往の高齢女性への対応、炊出しを行っている避難所の調査等を実施。

避難所巡回は遅くても20時までにはステーションに戻り、申し送りと書類整理を行い20時半に解散。宿舎は愛媛県栄養士会の今川理事宅をお借りして大変助かりました。

4 活動を終えて

支援活動を通して強く感じたことは、食の要配慮者がはっきり見えてきたこと。乳幼児や慢性疾患を持つ高齢者が避難生活を続けることの大変さや困難さが浮き彫りになりました。避難所だけでなく、自宅で生活している被災者、要配慮者に対しても栄養・食生活支援が届くように、地域の保健師や多職種と連携・協働して活動することがますます重要であると感じました。今後、必ず起こる南海トラフ地震に備え、受援体制も含めて一つひとつ準備を進めていきたいと思えます。

※JDA-DAT高知メンバー(2019年3月現在):44名(リーダー25名、スタッフ19名)